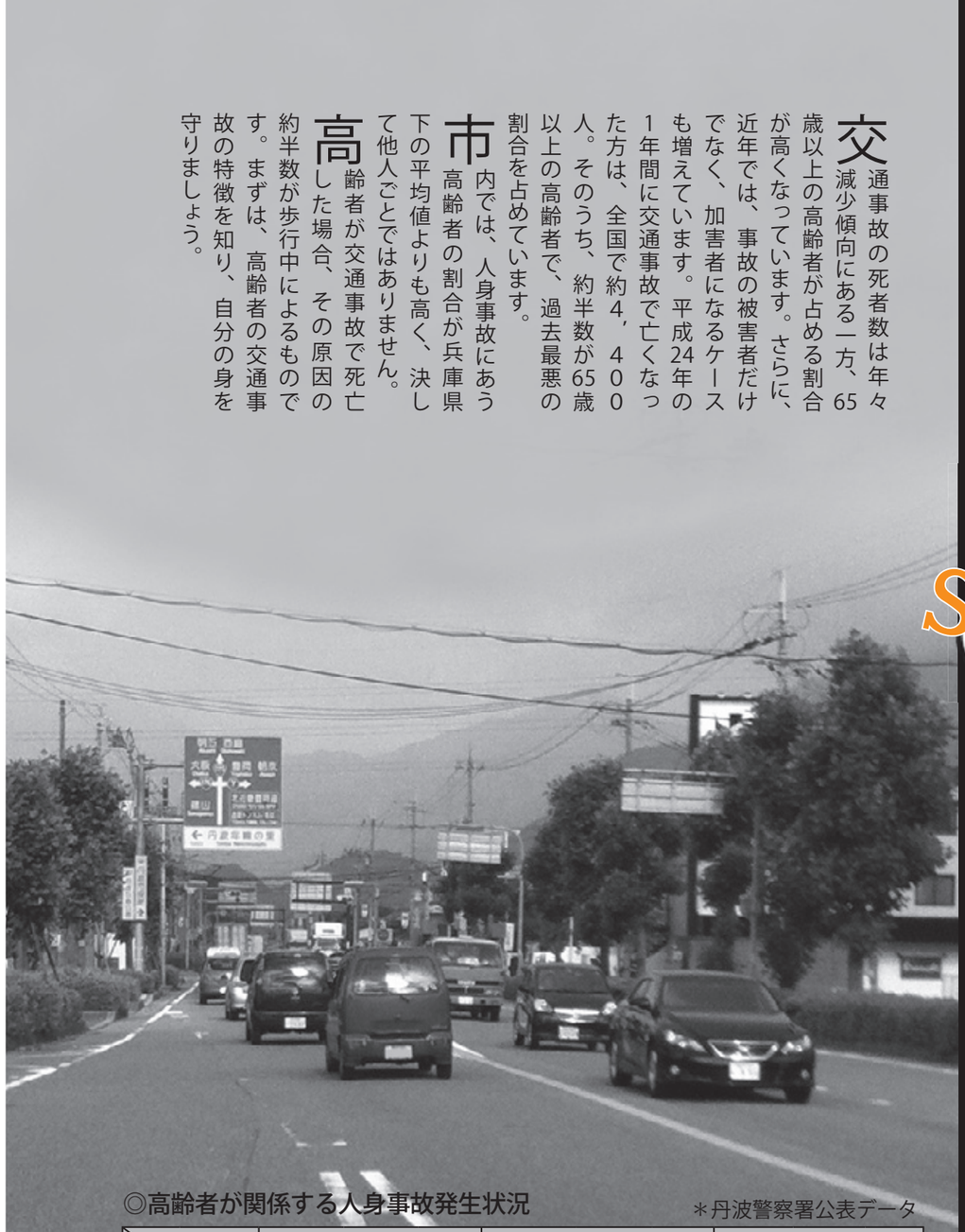
ストップ STOP！ 高齢者の交通事故

交通事故の死者数は年々減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者が占める割合が高くなっています。さらに、近年では、事故の被害者だけでなく、加害者になるケースも増えています。平成24年の1年間に交通事故で亡くなった方は、全国で約4，400人。そのうち、約半数が65歳以上の高齢者で、過去最悪の割合を占めています。

市内では、人身事故にあう高齢者の割合が兵庫県下の平均値よりも高く、決して他人ごとではありません。

高齢者が交通事故で死亡した場合、その原因の約半数が歩行中によるものです。まずは、高齢者の交通事故の特徴を知り、自分の身を守りましょう。



◎高齢者が関係する人身事故発生状況　＊丹波警察署公表データ

		人身事故発生件数（高齢者が関係）			負傷者数			死者数		
		（件）	高齢者（件）	比率（%）	（人）	高齢者（人）	比率（%）	（人）	高齢者（人）	比率（%）
22年	兵庫県	36,594	9,326	25	44,339	6,414	15	192	95	49
	丹波市	293	99	34	366	78	21	5	4	80
23年	兵庫県	36,195	9,181	25	44,100	6,315	14	198	94	47
	丹波市	282	91	32	369	74	20	4	2	50
24年	兵庫県	34,056	8,889	26	42,073	6,011	14	179	87	49
	丹波市	315	110	35	411	81	20	3	3	100

高齢者の事故を防ぐ取り組み

1 丹波警察署が「高齢者交通安全教育推進モデル警察署」に

市内では、人身事故のうち、65歳以上の高齢者が関係する事故の割合が県下平均よりも高いことから、「高齢者交通安全教育推進モデル警察署」として、高齢者を交通事故から守る取り組みが実践されています。

「高齢者が集う場」に出向いて交通安全教室を実施しています

「ふれあい・いきいきサロン」など、高齢者が集まる場所に出向き、短い時間でも、また、少人数の集まりであっても、署員が交通事故防止に関するさまざまな啓発を行っています。

ほかにも、交通安全教育を受けることの少ない人たちの家を訪問して指導する「ホッとあんしん訪問」も実施しています。

丹波警察署員が道路を横断する時の危険性について、模擬実践をしながら説明するようす

2 高齢運転者の運転免許自主返納を支援します！

市では、交通安全対策の一環として、運転免許証を自主返納された方に、運転経歴証明書の交付手数料の補助と「たんば共通商品券」1万円分の贈呈をしています。

■対象者 /65歳以上の方で、運転免許証を自主返納し、運転経歴証明書の交付を受けられた方

■申請先 / 市役所、各支所

問 生活安全課（氷上庁舎内）☎82 - 1532

高齢者の事故の特徴は？

特徴1

●市内全体では、追突事故が最も多く、次いで、出会い頭事故が多い！

車両相互の事故のうち、追突事故が約57%、出会い頭事故が約23%、双方合わせて約80%を占めています。

●しかし、高齢ドライバーは出会い頭事故の割合が高くなる！

高齢ドライバー（65歳以上）に限定すると、出会い頭事故の占める割合が高くなります。

原因　左右の安全不確認、先に渡れるだろうという判断の誤りがほとんどを占めます。

特徴2

●歩行時は注意！特に、道を渡る後半に事故にあう事例が多発！

兵庫県下では、歩行者が道路を横断している時に、後半部分で左から走行してくる車にはねられるケースが多発しています。

Point!　渡り終えるまでは、油断禁物！

最後まで気を抜かず、安全確認をしながら道路を横断しましょう。
歩行者が交通事故にあうと、死亡事故につながりやすいので、細心の注意が必要です。

原因　年を取るにつれて、若いころと比べて身体機能が低下し、歩く速度が遅くなります。また、走行車両の速度や距離を見誤りやすくなります。